所沢市交通バリアフリー基本構想を策定しました

本格的な高齢社会の到来やノーマライゼーション（※1）の理念の浸透に伴い、高齢者や身体障害者の方などが、自立した日常生活と社会生活を送ることができる環境の整備が求められています。

市では、高齢者や身体障害者の方をはじめ、誰もが駅などの旅客施設やその周辺の道路などを安全に、安心して利用できるように交通バリアフリー基本構想を策定しました。今回は、その概要をお知らせします。

※問い合わせ　交通安全課（☎2998-9140・FAX2998-9162）

“誰もが安心 どこでも安全 心のバリアフリー タウン所沢”を目指して

交通バリアフリー基本構想とは

交通バリアフリー法に基づき、1日の平均利用客が5,000人以上の駅を中心に、約1kmの徒歩圏内で、多くの高齢者や身体障害者の方などが利用する施設が立地する地区を重点整備地区と定め、駅、駅前広場、道路および信号機などのバリアフリー化を推進し、誰もが安全に、安心して利用できるように、市区町村が策定します。

策定までの経緯

市では昨年度、学識経験者、市民、公共交通事業者などによる「所沢市交通バリアフリー基本構想策定協議会」でのワークショップなどの検討結果を踏まえ、「所沢市交通バリアフリー基本構想」を策定し、4月に公表しました。

移動円滑化の目標と基本方針

バリアフリー化を進めるにあたり、市内全域での基本的な考え方として、移動円滑化の目標と基本方針を定めています。

キャッチフレーズとなる目標を「誰もが安心　どこでも安全　心のバリアフリータウン所沢」とし、①「誰もが使いやすく、安全に移動できる空間をつくります」②「ふれあい、支え合いの心で安心・快適な環境をつくります」③「人にやさしいまちを市・市民、団体、事業者みんなでつくります」の3つの基本方針により、目標の実現を図っていきます。

重点整備地区と基本構想の目標年次

所沢駅、航空公園駅、新所沢駅および西所沢駅の4駅周辺約69ヘクタールを、各駅の位置、施設や経路などを考慮して、一体とした重点整備地区（地図参照）に設定し、平成22年を目標にバリアフリー化を重点的に進めていきます。

歩行者用信号の青信号の延長

車道側に傾斜した歩道の改良

「まち歩き＆ワークショップ」のようす

ノンステップバスの導入

バリアフリー化に向けて実施すべき事業

鉄道に関する公共交通特定事業▼駅でのエレベーター設置▼身体障害者対応トイレの設置▼視覚障害者誘導用ブロックの改良▼文字運行案内設備の設置

バスに関する公共交通特定事業▼ノンステップバスなどの低床バスの導入▼車いすスペースの確保

道路整備に関する道路特定事業▼視覚障害者誘導用ブロックの設置・改良▼歩道幅員の拡幅▼歩道のこう配の改善▼乗降しやすいバス停の整備▼歩道上の車止めの改善▼交通標識や案内標識の移転・集約▼カラーリングによる歩行空間の明確化

信号機、放置自転車などに関する交通安全特定事業▼音響信号機の設置▼歩行者用信号機の青色時間の延長▼放置自転車・違法駐車対策

基本構想の推進に向けて

今後、基本構想に基づき、公共交通事業者、道路管理者などが具体的な事業計画を作成し、さまざまな事業を実施していきます。

市では、市民・公共交通事業者・関係機関による協議会を設置し、基本構想の進行管理と事業実施のチェックを行います。

所沢市の基本構想の特徴

本市の基本構想の主な特徴を3つ紹介します。

1つめは、平成19年を目標に西所沢駅のほか東所沢駅、秋津駅、下山口駅でエレベーターを設置していきます。

2つめは、施設だけではなく、心のバリアフリーを進めるため、市民、団体、事業者、市が役割を分担し、バリアフリー意識の啓発、気配り・支え合いの実践などの施策を実施していきます。

3つめは、官庁施設や防衛医科大学校病院、所沢航空記念公園など多くの方々が利用する施設が集中している航空公園東口エリアをバリアフリーモデル地区（地図参照）と位置づけました。市全体のバリアフリーを先導する地区となることを目指していきます。

＊　＊　＊

生活をしていくうえで、さまざまな障壁を取り除いていくバリアフリーの視点から、すべての人が利用しやすいように、はじめからバリアをつくらないユニバーサルデザイン（※2）の時代へと社会は変化し始めています。

基本構想の実現をそのスタートとして、すべての人が暮らしやすいまちづくりを目指します。

◎所沢市交通バリアフリー基本構想は、市役所2階・交通安全課、同1階・市政情報センターでご覧になれます。

駅のエレベーター設置

【用語説明】

※1**ノーマライゼーション**
障害者を特別視するのではなく、一般社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、ともに生きる社会こそノーマルな社会であるとの考え方

※2**ユニバーサルデザイン**
あらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種などにかかわらず多様な人々が利用しやすい都市や生活環境をデザインする考え方

※3**特定経路**
平成22年までに交通バリアフリー法の「道路の移動円滑化整備に関する基準」を満たすように整備をする経路

※4**準特定経路**
平成22年までに移動の利便性および安全性を向上していく経路

市長インタビュー

みんなが暮らしやすいまちづくり

●「交通バリアフリー」についての考えをお聞かせください。

斎藤市長　現在、本市における65歳以上の高齢者は、約5万人、高齢化率は14.6%で全国平均（約19%）と比べると高くはありませんが、確実に高齢化は進んでいます。

また、市内には、身体にハンディキャップを持つ多くの方々が生活しています。

このようなことから、駅などの旅客施設や道路については、将来の姿をしっかりと見据えた整備が必要です。

特に道路などの都市基盤は、長期にわたり市民をはじめ、さまざまな方が利用するものですから、重点整備地区に限らず市内全域においてバリアフリーやユニバーサルデザインの視点を持ち、事業を進めていくことが重要だと考えています。

高齢者や障害者にやさしいまちは、すなわち、みんなが暮らしやすいまちであるということです。

●今後、交通バリアフリーを実現していくために大切なことは何ですか。

市　長　駅をはじめ、公共交通機関や道路などの整備については、行政や公共交通事業者が取り組むことになりますが、ハード面のバリアフリーだけでは対応できないものがあります。それは、高齢者や身体にハンディキャップのある方々に対する配慮や理解など“心のバリアフリー”です。

往来で困っている方には、手を差し伸べていただくなど、市民をはじめ多くの方々がボランティア精神を持ち、積極的に“心のバリアフリー”にかかわっていただくことが、大切だと思います。

皆さんの、ご理解とご協力をお願いします。

所沢市交通バリアフリー基本構想スタートアップ事業

《航空公園駅・新所沢駅》駅ボランティアを募集します！

「駅ボランティア」は、通勤・通学などで駅を利用する際に、高齢者や身体障害者の方などが困っているのを見かけたら、ホームへの案内、手荷物の運搬、切符の購入、乗降の補助および通路や階段の移動の支援等、進んで手助けをしていただくものです。ただし、常駐ではありません。

なお、事前に手助けについての体験会に参加していただきます。

募集期間　7月5日(月)～20日(火)（申し込み多数の場合は抽選）

募集対象／人数　航空公園・新所沢各駅利用の中学生以上の方／各駅50人

◎ボランティア保険（500円程度）に加入していただきます。

■体験会

とき・ところ　7月31日(土)／午後1時～4時、8月1日(日)／午前9時～正午、8月2日(月)／午後1時～4時・いずれも航空公園駅203会議室

応募先・問い合わせ　往復はがき（1人1枚）に「駅ボランティア参加希望」と明記し、①住所②氏名③年齢④電話番号⑤活動希望駅⑥体験会の第1・第2希望日時を記入のうえ、交通安全課（〒359-8501・並木1-1-1／☎2998-9140・FAX2998-9162）へ郵送申し込み

やさしさをありがとう

色川（いろかわ）　安子さん（上山口在住）

私は、四肢機能障害のため、車いすで生活しています。数年前から電動車いすを利用することにより、たまには1人で外出することもできるようになりました。

駅で困っているとき、声を掛けてくれたり、切符を買ってくれたりする方もいらっしゃいます。その親切な気持ちは本当にありがたいです。

バリアフリー基本構想で駅などの設備が整うこととあわせて、“心のバリアフリー”の輪が一層広がっていくことを期待しています。

安心して外出できるまちに

中村　英夫さん（下安松在住）

視覚障害者が外出すると、予期せぬ危険にしばしば遭遇します。

駅のホームから転落する事故なども聞きます。また、本来は安全に誘導するはずの歩道の点字ブロックの上に、たくさんの自転車が置かれていたため、私も危ない思いをしたことがありました。

私は、都内のライブハウスに演奏を聴きに行くことを楽しみにしています。障害者がいつでもどこでも安心して出かけられる、バリアフリータウンの実現を願っています。